

1. 開催概要

展覧会名	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展	
開催施設名	会期	入場者数
国立西洋美術館	2019年6月11日～2019年9月23日	472,130人
●開催概要 国立西洋美術館の開館 60 周年を記念し、そのコレクションの礎を築いた実業家、松方幸次郎（1866-1950）に焦点をあてた展覧会。松方コレクションの形成と散逸、そして国立西洋美術館が設立されるにいたる過程を、美術作品や歴史的資料計約 160 点でたどった。 松方コレクションに関するこれまでの丹念な研究成果をふまえた内容は、日本経済新聞が 2019 年の美術界を総括する記事で「緻密な研究に裏付けられた優れた展示」と評すなど専門家からの評価も高く、また、一般の来場者からも「松方コレクションが戦争をかいぐり、この現代に集結したことに感動した」「作品数も多く見ごたえがあった。西洋美術館の成り立ちや、松方の熱意にふれ感動した」などと感嘆の声が相次ぎ、好評を博した。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

申請時に見込んだ軽減額 513 万円を以下のとおり還元した。

(1)鑑賞機会の拡大

小中学生を無料にしたほか、高校生の無料観覧日を 7 月 20 日から 8 月 6 日までの 15 日間、設定した。期間中に 2341 人の高校生が訪れ、より多くの若年層に優れた美術鑑賞の機会を提供することができた。

高校生無料@800 円×2341 人＝約 187 万円

高校生無料デー周知にかかった経費 約 140 万円

(2)展示作品の質・量の充実

松方コレクションがたどった歴史を象徴するオルセー美術館所蔵の 2 作品（ゴッホ「アルルの寝室」とゴーガン「扇のある静物」）を含む複数作品を国内外から借用することができ、展覧会の質・量を充実させることができた。

2 作品の航空運賃、クレート代 約 152 万円

(3)教育普及活動の充実

会期中に展覧会に関連した講演会を以下のとおり 4 回実施し、専門家ならびに一般の美術ファンに松方コレクションをより深く理解する機会を提供した。

① 日時:2019 年 6 月 11 日(火)14:00～15:30※同時通訳つき

ブリュノー・マルタン(フランス文部省・建築文化財メディアテーク)

「写真家ピエール・シュモフのカメラがとらえた松方コレクション」

参加者数:68 名

② 日時:2019 年 6 月 15 日(土)14:00～15:30

邊牟木尚美(国立西洋美術館研究員)

「松方コレクション展と作品修復」

参加者数:101 名

③ 日時:2019 年 7 月 20 日(土)14:00～15:30

宮崎克己(昭和音楽大学教授)

「印象派ブームわき起こる～第一次大戦直後の日本」

参加者数:130 名(満席)

④ 日時:2019 年 9 月 7 日(土)14:00～15:30

陳岡めぐみ(国立西洋美術館主任研究員)

「松方コレクション 百年の流転」

参加者数:130 名(満席)

講師・通訳謝礼 約 25 万円 運営経費 約 9 万円

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

なし

4. 安全配慮に関する特別の対応

・往復の輸送便には所蔵者が指定したクーリエが随行し、作品の安全に細心の注意を払った。

・所蔵館での梱包時、国立西洋美術館での開梱時、再梱包時、および所蔵館に返却された際の開梱時の各段階で、コンディション・チェックを行い、所蔵者担当者・クーリエが調書へ記入・署名を行った。

・輸送時には作品輸送車に同乗し、作品の展示・撤去にはクーリエが必ず立ち会った。また、作品の安全管理のために、温湿度を一定に保ったほか、照度も油彩は 150 ルクス以下とした。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

・本制度の適用によって、国外に所蔵される松方旧蔵の名品を展覧会に含めることができたことは、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致していたものと自負する。それらの作品を含めることで、日本における西洋美術の受容を考察するうえで欠かせない存在である「松方コレクション」について、より実像に近いかたちで、またインパクトをもって、広く国内外に紹介することができた。

・美術品補償制度の適用外作品ではあるが、本展の出品作であり、カンヴァスの上部が欠失した国立西洋美術館所蔵のモネ《睡蓮、柳の反映》の全体図をデジタル推定復元したことは、国民にとって優れた美術品の鑑賞の一助になったと思われる。国立美術館初のクラウド・ファンディングによる事業という話題性もあり、展覧会のみならず、優れた美術品や文化財保護、鑑賞方法に関する国民の関心を広く喚起した。最新の技術や手法を用いることで、美術品鑑賞に新たな視点をもたらす一例となった。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立西洋美術館、読売新聞東京本社

●収入

内 訳	決算額
	万円
展覧会収入・その他の収入	65,071
主催者による補填	81
収入総額	65,152

●支出

内 訳	決算額
	万円
企画準備等基本経費	23,010
設営・運営等会場関係経費	42,142
支出総額	65,152